



令和3年1月1日現在	
世帯数	982 戸
人口	2,335 人
男	1,171 人
女	1,164 人

年頭のごあいさつ

内田地区町会連合会長 丸山 幸英



明けましておめでとうござ
います。新しい年を、ご家族
皆様で迎えになられたこと
と思います。新型コロナウイ
ルスの影響もあり、通常であ
れば帰省された親戚の方々
と賑やかに迎えるはずの新年
が、今年はかなり様変わりし
てしまったご家庭もあったこ
とでしょう。

昨年は、その新型コロナナウ
イルス感染対策に追われなが
らの町会運営でした。4月7
日政府から緊急事態宣言が発
せられました。既に3月中旬
にはイベント自粛要請、公立
小中学校の一斉休校等の措置
が取られていましたが、町会
長会はこの事態を災害と位置
付けて、自主防災基金を活用

してマスクを購入し全戸にお
配りいたしました。また、計
画された行事の開催が見通せ
ない中で、連合町会費後期分
を半額とし、公民館運営委員
会への助成金の減額、各種積
立金の凍結等々、従来に経験
のない取り扱いをいたしました。
松本市主催によるイベン
ト、スポーツ大会等は軒並み
中止となり、内田地区三大行
事のササラまつり、大運動会
は3密を避ける意味で中止は
余儀無いことでした。

その中で、地区文化祭は、
密を避けるできる限りの対策
を講じ開催日を1日短縮して
行われました。展示物は素晴
らしい作品、力作が展示され
ましたし、ひろばまつりのサ
ークル発表も和やかな雰囲気
の中で行われました。
防災訓練、塩沢舟沢両河川
清掃は規模を縮小し工夫を凝

らしながら実施しました。担
当する役員の皆様には通常以
上のご負担をおかけする事な
ったと思います。又、長年
堆積していたゲートボール場
の枯れ枝処理、樹木の一部伐
採ができたことも特出すべき
事でした。ご協力に心から感
謝いたします。

行政に対する要請は鋭意行
ってまいりましたが、既に各
種情報等でお知らせしたとお
り、成果があったもの、スタ
ートラインに立ったもの、道
半ばのもの等々、今後も継続

してまいります。

閑話休題

新しい令和3年ほどの様
年になるのでしょうか。新型
コロナウイルス感染の第3波
が襲来したといわれています。
外出自粛に伴う経済の疲
弊、医療現場の苦悩は、連日
報じられています。密集を避
けるため人との交流制限、リ
モート勤務による働き方の変
貌、劇的に進むIC化等の影
響で人々の価値観が変わりつ
つある様です。宗教観さえも
変わってしまうのではと心配

追伸
既にご承知の事と思いま
すが、関係の皆様方の努力で内田
かるたが3月に完成する予定
です。何よりの明るい話題で
す。

文化芸術視察研修 飛騨高山編

体温チェックOK
味覚嗅覚異常なし
マスクを着けて、
えべや飛騨高山



みなさん！とっても楽しく
て、ゆったりとした時間が流
れ、絶品グルメのお得な旅つ
てご存じですか？それは、内
田公民館の視察研修です。合
言葉は「時間にゆとり」「食
べ物ケチるな！」

合掌造りの古民家を見てホ
ツとする、絶品の飛騨牛に舌
鼓、3密に配慮しながら、幻
想的な飛騨大鍾乳洞で至福の

ひと時を過ごすことができま
した。
コロナ禍で、体操の内村航
平選手が、「できない」「じゃ
なくて『どうやったらできる
か』を考えて欲しい」と訴え
たスピーチが心に刺さってい
ます。館長はじめ、事務局の
皆様がこれを実践していただ
き、今回の研修が実現されま
した。参加者の満足度も高く、
感謝しております。

今回の研修では、見失って
いたモノを再発見することが
できた気がします。

次は一緒に体感しましょ



第1町会 横木 孝夫

う！
百聞は一見に如かず！
そろそろコロナに打ち勝つ
ころなのでは？

牛伏川階段工ウォーキング

10月7日、公民館とひろば共催の「牛伏川階段工」のウォーキングに行つてまいりました。地元において、国指定の重要文化財であることを知りつつも、なかなか行く機会がなく丁度良いタイミングでNHKがフランス式階段工を放映しました。まさにこの機にこの企画。

館長の要所要所の見事なガイドで5号堰提まで参加者22名全員が勾配のきつい上り坂、下り坂を完歩しました。素晴らしい景色と偶然出会ったリスの歓迎、自然を満喫するとともに偉大な

先人達の石積技術や砂防遺産に感激しました。相田みつをの詩にもあるように「土の中の水道管、高いビルの下地下水、大事なものは表に出ない」とまさにそんな感じですね。そしてこのコロナ禍において皆で自然の中で美味しいお弁当と会話が出来たこと、本当に至福の時間を過ごすことができました。

ご参加頂きありがとうございました。
内田地区福祉ひろば
コーディネーター
丸山 一子

受賞おめでとうございます

まつもと市民祭表彰

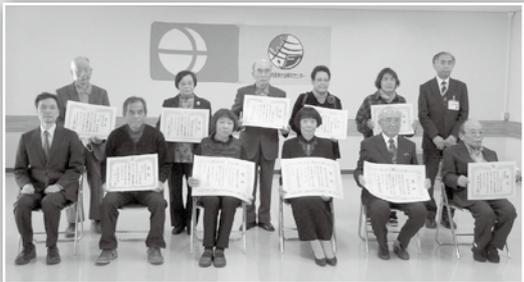
令和2年11月1日、第63回まつもと市民祭表彰式典が行われ、農事組合法人内田営農がまつもと市民祭表彰(農林業功労者表彰)を受けられました。



農事組合法人内田営農
代表理事 古幡 進一氏
(後列左から1人目)

長野県知事表彰

令和2年12月3日、令和2年度長野県知事表彰授与式が行われ、内田地区ボランティア会が長野県知事表彰(社会福祉表彰)を受けられました。



内田地区ボランティア会
会長 百瀬 幸子氏(前列左から3人目)



山ふところの里 内田めぐりかるた

内田地区町会連合会は、2020年に内田地区が松本市と合併して60年を迎えたことを記念して、「山ふところの里内田めぐりかるた」を製作しています。昨年7月に町会長や公民館委員等で作成委員会を設置して、かるた作成に取り組んでまいりました。

かるたは、内田地区の名所や旧跡、伝統行事などを題材としており、絵札は内田地区在住の方に描いていただきました。今年の3月に完成する予定で、一般販売のほか、学校や福祉施設等には無償で配付されます。

かるたで遊んだ子どもたちが、内田地区の歴史や文化財、行事等に興味を持つ機会となればと願っています。



つれづれ編集記

新しい年「令和3年」を迎えても県内でのコロナウイルス感染の第3波が11月初旬から感染拡大傾向です。最近では自分らの生活・活動圏内(松本・塩尻・安曇野地域)でも感染者が発生して、切実な脅威を感じるこの頃です。

歴史的に見る感染症では、MERS(中東呼吸器症候群)、SARS(重症急性呼吸器症候群)が世界的には広まりましたが、日本では感染が広がらず脅威感は無かったですが、1918年〜1921年のスペイン風邪インフルエンザ(流行性感冒)では、国内で感染者2380万人(当時の人口の約43%)が感染して死者が約39万人とパンデミック状態でした。

地球上にウイルス・微生物(昆虫)各種動植物が生存している中、頂点に立ってわがままな「人類」、地球環境も省みず自己の繁栄を、そんな人間への試練、自然淘汰の原則か?化学・生物学・医療技術の発達で「春よ来い、早く来い」「ワクチン恋い早く来い」そんな気持ちのこの頃です。第3波を乗り越え、健やかな年となるよう、もう一度感染防止対策ルールの徹底を「かからない」行動を!

第4町会 小河 光正